

兵庫県 宍粟市

所在地 兵庫県宍粟市山崎町中広瀬 133-6(宍粟市 まちづくり推進部 環境創造課)



（アドバイザー派遣申請の背景）

地域資源の活用、保全に向けた仕組みづくりを

宍粟市は、平成 17 年 4 月に宍粟郡 4 町(山崎町、一宮町、波賀町、千種町)が合併して誕生した。

市ではその後、平成 22 年 7 月に「宍粟市環境基本計画」を策定し、その具体的実行計画として、平成 23 年 3 月に「エコしろうアクションプラン 2011」を策定した。その策定経過において「地域の自然環境を保全するためには、住民が地域の自然の魅力や価値に気づき、それを広く発信することによって、持続的に環境保全に向けた作用が働く仕組みづくりが欠かせない。」との考えに至っている。

そのことから本年度、市と波賀地域(旧波賀町)の観光事業者でエコツーリズム研究会を立上げ、地域資源の活用方策や事業者間の連携に係る検討、エコツーリズム推進協議会の設立に向けた諸準備などを進めている。

また、市の観光振興に向けた基本理念や将来ビジョンを定め、総合的な観光政策を進めるため現在、観光基本条例及び観光基本計画を策定中である。

今回のアドバイスを契機としてこれらの取組の参考とし、本市におけるエコツーリズムの先進モデルを確立したい。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	○
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	○
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	○
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	○
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	○
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	○
(その他)	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	
動植物の生息地・生育地	
地形・地質	○
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
(主な自然観光資源)	
氷ノ山、しそく 50 名山、音水湖(カヌー競技場・関連施設)、滝(原不動滝公園)、スキー場、キャンプ場	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
原生的な自然におけるエコツアー		○
地域に特有な野生生物とのふれあい		○
自然の営みにふれる観察会への参加	○	
環境教育を主目的とした活動	○	
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動		○
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動		○
地域の生活や文化を体験する活動		○
環境保全のための貢献活動		○
自然の中でゆったりとした時を過ごしながらか自然の恵みを体感する活動		○
(現在取り組んでいること)		
(取組を検討していること)		

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成 24 年 3 月 1 日（木）～2 日（金）

●場所

兵庫県宍粟市 波賀地域

原不動滝公園楓香荘、原観光りんご園、音水湖カヌー競技場、戸倉スノーパーク、道の駅みなみ波賀 他

●エコツーリズム推進アドバイザー

財団法人尾瀬保護財団 企画課主任 安類智仁 氏

●参加者

波賀エコツーリズム研究会、宍粟市観光基本計画策定委員、宍粟市 計 20 人

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

観光資源の視察や関係者へのヒアリングを行って頂き、当該地域における今後のツアーづくりや市全体の観光施策の展開に向けたアドバイスを頂く。

(1 日目)

- ・ 波賀地域における観光資源の視察
原不動滝公園楓香荘、原観光りんご園、音水湖カヌー競技場、戸倉スノーパーク
道の駅みなみ波賀 他
- ・ 波賀エコツーリズム研究会メンバーへのヒアリング

(2 日目)

- ・ 尾瀬のエコツーリズムの現状と展望に関する講演
- ・ 波賀エコツーリズム研究会へのアドバイス
- ・ 宍粟市観光基本計画策定委員及び関係職員へのアドバイス

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

波賀エコツーリズム研究会では今回、実際の経験に基づくアドバイスを受けたことで、ガイド養成やエコツアー作りに向けて、より具体的なイメージを共有することが出来た。また、尾瀬の取組事例や成功・失敗体験を直に聞くことができ、意欲の高揚に繋がった。

宍粟市観光基本計画策定委員及び市関係職員への講義では、当地の特性を活かした観光振興に向けてエコツーリズムが非常に有効な手段となりうるものが改めて認識できた。また、ガイドという人的要因によって地域資源の魅力を高めることにより「今あるものを活かしながら新しい観光を創り出す。」という基本方針を共有することが出来た。



●今後の期待される効果

今回のアドバイスを契機として、波賀地域においてエコツーリズム推進体制を整備し市内のモデルとなるエコツーリズムの具体的実践をめざすとともに、これらの内容を市の観光基本計画に反映させ、将来的に市全域でエコツーリズムの推進が図られるよう条件整備を行う考えである。

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

●参考となった事項

尾瀬におけるガイド認定制度の概要やその経緯を聞くことで、ガイド養成に向けた具体的な道筋をイメージすることが出来た。また、尾瀬で行われているエコツアーの事例や具体的手法を知ることができ今後のツアーづくりの参考となった。

●その他感想

アドバイザーの安類先生には長時間の移動でお疲れであるにも関わらず、懇切丁寧に真摯な態度で関係者へのヒアリングとアドバイスを行って頂いた。

それによって地域側も先生を信頼し、些細な疑問や日頃悩んでいることなども安心してお尋ねすることが出来た。

市の単独事業としてこのような機会をつくることは困難であり、環境省の支援によって、素晴らしいアドバイザーの招聘が実現したことに感謝したい。



(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

安類アドバイザーからの地域へのアドバイス

●楓香荘

駐車スペースも大きく、シーズン中はこの付近の来訪者が最初に立ち寄る場所であると思われる。視察時は冬季ということもあるが、館内では周辺の自然のようす・名所・散策コース・体験プログラム等の利用情報の提供が行われていないため、来訪者によっては短時間の立ち寄り・通過となってしまうと思われる。この付近を訪れた観光客が立ち去ってしまわないよう、コース整備・標識整備・利用情報の提供等を行い、観光拠点としての性格を持つ必要がある。

●原観光りんご園

幸福氏は「水源地としての森林再生」「若者受入による地域活性化」という、宍粟市エコツーリズム推進に必要なテーマに30年前から個人で取り組んでおり、今回の2日間の派遣期間中で「宍粟市の自然と人との関わり」を誰よりも意識した方であると感じた。氏が蓄積してきた知見を活かして、地域住民や宍粟市エコツアーに興味を持つ方を対象とした学習会を開催することで、地元の自然への興味づけや資料整備を図ることが望ましいと思われる。



●音水湖（おんずいこ）・カヌー競技場

OECに限らず、宋栗市を訪れた旅行者がカヌーだけでなく、様々な楽しみを市内で体験し満足できるように、地域だけでなく、組織間の連携を図る必要がある。

エコツアー運営にあたって安全管理は最も大切な要素だが、この点についてのノウハウを持っているのは、この地域ではOECであると思われる。多くの関係者が寄り添えるような目標を設定しつつ、お互いの得意分野を持ち寄って情報交換・交流を行うことで、活動内容を高めてはどうだろうか。



●道の駅「みなみ波賀」

「みなみ波賀」の建物内でのサービスは非常に充実しているが、より滞在時間を延ばして客単価を上げるためにも、建物周辺の整備や近隣観光との連携を図る必要がある。

建物裏手には手頃な清流があるため親水公園として施設整備を行うことで、滞在時間を延ばすことが可能だと思われる。

宋栗市の中心にある点を活かして、パークアンドライド方式の周辺観光地への周遊や、建物近隣での散策・散歩コースの案内も有効であると思われる。

ブルーベリー園の摘み取り体験と園地の拡大は、利用者増と滞在時間を延ばす取組として有効だが、無料化での運営を行ってみたいかどうかと思う（持ち帰りはNG）。



●フォレストステーション波賀

数多くの施設が点在し多目的な場所になっているため、利用者の目的も日帰り入浴・宴会・ホテル宿泊・キャンプ・自然体験・登山と様々だと思われる。客層とニーズに合ったサービスとプログラムの提供は言うまでもないが、受入側のビジョンを明確にする必要がある。

ビジョンを明確にする作業において、客層やニーズの把握、満足度の把握だけでなく、この場所の自然の把握を行うと、より充実したものができると思われる。特に「風景・眺め」「動物」「植物」については1年を通して観察・記録すると良いと思います。特に動物は来園者にとって驚き・喜び・自然を感じる事につながるなので、園内で見られた動物のリストや写真を用意してみても思う。



楓香荘と同様に、来訪者への情報提供を充実させる必要があると思われる。

敷地の中心にある東山温泉メイプルプラザは、館内の雰囲気と周辺の自然の雰囲気とがマッチしていないため利用者層も分かれていると思われる。フォレストパーク波賀の来訪者にどんな体験を提供したいのかを明確にする必要がある。

●全体的なコメント

今回の視察で訪れたのは数箇所だけでしたが、それぞれに共通する課題に「滞在時間を延ばす」、「連携」、「情報提供」があったと感じました。宍粟市の来訪者は大きく分けると①マイカー利用者②学校団体だと思のですが、どちらの場合においても「点を目指して来た来訪者を面で受ける(広げる)」方法を考えることが滞在時間の延長につながりません。面で受ける(広げる)方法は、その場の条件によって異なると思いますが、道の駅「みなみ波賀」での拠点整備・周辺環境整備がその一例です。また拠点に車を停めて宍粟市内を周遊・散策できるよう、パーク&ライドやパーク&ウォーク方式での観光も適していると思います。



「連携」については思想や活動目的の違いなどもあり、必要に応じて考えればいいものだと思いますが、お互いに足りない部分を補い合い、顧客満足度を高め、リピーターを作るためにも積極的に取り組みたいところです。宍粟市エコツーリズム研究会とその事務局は、連携の仲介役としての機能も必要とされてきますので、まずは個人や組織の持つ特徴や個性を提供しあう場を設定してみてもどうでしょうか。「宍粟市の自然の理解」、「インタープリテーション」、「ツアーの安全管理」、「接客」といったテーマで勉強会を設け、それぞれに適した個人や組織に講師となってもらう事で、情報交換・スキルアップ・相互理解といった効果が期待できます。閉鎖された勉強会ではなく、そこに地域住民や一般客が加われば客観的な評価もできると思います。

話が前後してしましますが、宍粟市エコツーリズムの基本構想や計画を考える上で、様々な分野の方々の参画が必要となってきますが、そのはじまりになると思います。

「情報提供」には、提供する情報の内容、方法、対象、それをやる意味まで含まれています。現状では宍粟市エコツーリズム研究会の活動がほとんど発信されていないので、まずは一つのウェブサイトやパンフレットに研究会活動を掲載してみてもどうでしょうか？また宍粟市の観光パンフレットは豊富ですが、観光スポットが地図に示されているものが大半で、カレンダーで表現されているものはありません。見ごろ・食べごろといったイベント・カレンダーに、宍粟市の自然や動植物の自然暦や、地域で行われる細かな歳時記を加えた、宍粟市カレンダーを作成・配布するのも効果が高いと思います。「情報提供」というと、つい「方法 = 多様なメディアの使い分け」を意識しがちですが、伝え方の工夫についても色々なアイデアを出し合ってみてください。

